



# みどりの手帖

## 特集

ランドスケープのしごと  
明治神宮外苑の再生と  
新国立競技場整備計画に対する景観・  
ランドスケープの提案

中心部にあたる神宮第二球場の位置を、都会の森と多目的広場機能を持つセンター地区(オリンピック広場)として再整備することが望めます。これにより、平常時においても外苑地区全体の利用の核となる象徴的空間を確保することができます。また南側の賑わい空間と北側の水と緑の空間を緩やかに区分しながら結びつける空間としても効果的です。

**歴史的意匠を活かした象徴性の強調** 中心核を整備するにあたっては、「神宮」の歴史的な性格付けを踏まえて、かつてこの場所に存在した相撲場のデザインを取り入れた象徴的な形状が考えられます。(タイトル背景野球場上部参照)

### 提案4 絵画館前広場の再整備

**歴史的意匠の再生** 再開発に伴って既存建築施設の移設が検討されている絵画館前の広場については、中心軸を強調した整備当時の象徴的なデザインに回帰し、歴史的文化的価値を高めることが望まれます。(タイトル背景右側参照)

### 多目的広場化 野球利用者のため

の空間を一部確保しつつ、誰もが自由に緑の環境の中で憩い、様々なスポーツレクリエーション活動を楽しめる広場としての整備が望まれます。

### 周辺施設との連携強化・快適なアクセスルート(歩行空間)の整備

JR千駄ヶ谷駅方面からのアクセスが不明瞭な現状を改善するとともに新宿御苑と連携する動線の整備が望まれます。

### 提案5 周辺施設との連携強化・快適なアクセスルート(歩行空間)の整備

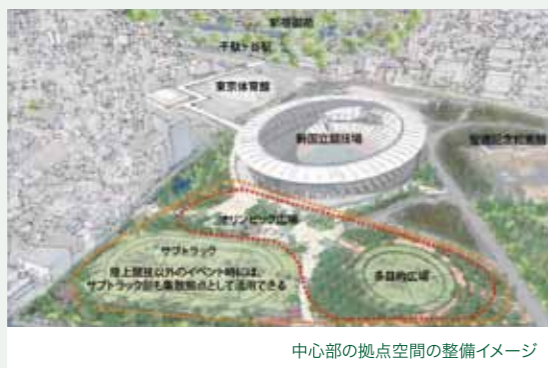
**明確なメインアクセスの確保** 東京体育館脇を經由し外苑西通りを

またぐペDESTリアンデッキで新国立競技場にいたるアクセスルートを快適でゆとりのある歩行空間として整備することが望まれます。

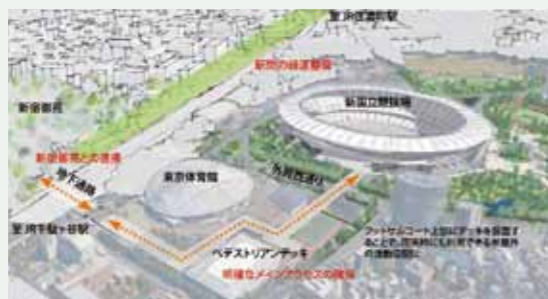
**新宿御苑との連携** 新国立競技場に向かうペDESTリアンデッキを駅北側にも延伸し、新宿御苑の千駄ヶ谷門に連結することも考えられます。

### 駅間の歩行ルートの改善

JR千駄ヶ谷駅の改築を検討するとともに、同駅とJR信濃町駅を結ぶルートを緑豊かな歩行者専用路として整備することも望まれます。



中心部の拠点空間の整備イメージ



ペDESTリアンデッキ整備イメージ



全体計画イメージ図(提案位置図)

## いきものコラム その18

## 土に咲く花「カンアオイ」

カンアオイという植物をご存知でしょうか。蝶に詳しい方なら春の林に舞うギフチョウの食草としてご記憶でしょうし、歴史好きな方なら、徳川家の「葵の御紋」のモチーフとなったハート形の葉を思い浮かべられるかもしれません。

カンアオイの花は冬に咲きます。根元を少し掘ると、半分土に埋もれてまるで土から直接咲いている様な姿を見つけれられます。とても地味な花で、目立つ色で虫を誘ったり風で花粉を散らすことがないため、古くから繁殖のしかたが謎に包まれてきました。ナメクジやヤスデ等の地表徘徊生物が花粉を媒介しているという説もあるようですが、最近の研究



では、花から出す腐臭に引き寄せられたキノコバエの一種が媒介役として有力だそうです。

筆者が植物を覚え始め、カンアオイを初めて見た時、東南アジアの深い森に咲くという世界最大の花「ラフレシア」を連想しました。両者はきっと近縁に違いないと思い図鑑を引くと、ラフレシアはヤッコソウ科、カンアオイはウマノスズクサ科で類縁がなく、がっかりしたことを覚えています。でも両方とも腐った匂

いでハエを誘引することを思うと、種類は違えど生き様が同じなら姿も似てくることに、生き物の不思議さを感じます。

株式会社ブレイク研究所 関元 聡

## 気になる施設

今回はテーマにちなみ、神宮外苑の聖徳記念絵画館を紹介します。

### 聖徳記念絵画館(せいとくきねんかいがかん)

青山通りの外苑入り口から続くイチョウ並木は、ハンバーガー・ショップに長蛇の列ができるなどTVでもお馴染みです。このイチョウ並木の先に位置する聖徳記念絵画館は、多くの方はご存知でしょうが、施設内に入られた経験をお持ちの方は少ないのではないのでしょうか。

聖徳記念絵画館は、明治神宮外苑の造営を主目的に我が国最初期の美術館として、1926年(大正15年)建築されています。建物の造形表現は今でも斬新であり、幾何学的な形態を強調した外観を見ることができます。館内に入ると花崗岩を張り巡らしたドーム空間は圧巻であり、左右の画室には明治天皇のご生誕から崩御までの出来事を一流画家により描かれた名

画を鑑賞することができます。さらに探求して、施設の裏に廻れば葬場殿址のクスノキの大木が、聖徳記念絵画館の中心軸端に鎮座しています。

**住所** ● 東京都新宿区霞ヶ丘町1番1号  
**電話** ● 03-3401-5179  
**開館時間** ● 9:00 ~ 17:00 (最終入館 16:30)  
(12/30 ~ 1/2 は 10:00 ~ 17:00)  
**休み** ● 年中無休 **施設維持協力金** ● 500円  
**交通** ● JR信濃町駅より徒歩3分、地下鉄青山一丁目駅・外苑前駅より徒歩10分  
**ホームページ** ● <http://www.meijijingugaien.jp/>



[左] 聖徳記念絵画館外観

[右上] 大広間ドーム

[右下] 葬場殿址のクスノキ

## 編集後記

早いもので1年があっという間に過ぎようとしています。新年を迎えるといよいよ2020東京オリンピック・パラリンピックまで4年余りです。

今回の特集は五輪関連として、CLA五輪特別委員会が取りまとめた、「明治神宮外苑の再生と新国立競技場整備計画に対する景観・ランドスケープの提案」について紹介しました。注目される新国立競技場だけでなく、ランドスケープの観点から神宮外苑一帯に着目した熱い想いを感じ取っていただけたらと思います。また詳細についてはCLAのホームページにも掲載されていますので、ぜひアクセスしてみてください。来年も「みどりの手帖」で興味ある特集や記事を企画していきたいと思っておりますので、ご愛読のほど、よろしくお祈りします。(きくや)

### みどりの手帖 Vol.18 2015年12月

発行者 (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部長 新井 豊  
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル8階  
TEL 03-3662-8266 FAX 03-3662-8268

企画・編集 光益 尚登、加藤 直人、石井 ちはる、石垣 良弘、泉地 善雄、菊谷 隆、杉原 豪、高橋 彩、和田 淳

※ 転載・転用を禁じます。表紙写真/神宮外苑 銀杏並木、明治神宮外苑競技場(東京都立中央図書館蔵)



## ランドスケープのしごと：

# 明治神宮外苑の再生と新国立競技場整備計画に対する景観・ランドスケープの提案

## 特集



1964年の東京オリンピックで主会場となった駒沢オリンピック公園や、選手村となったワシントンハイツ跡地を神宮の杜と一体的に整備した代々木公園は、50年の時を経て豊かな緑のもと人々が憩いスポーツなどを楽しむ場として広く親しまれています。長く愛される場となるために、景観・ランドスケープ計画の視点は欠くことのできないものです。CLA2020東京五輪特別委員会では、新国立競技場計画の白紙撤回を受け、新国立競技場及び明治神宮外苑の新整備計画に関しての考え方、5つの提案をとりまとめました。今回の特集はその提案をご紹介します。

### CLA 2020 東京五輪特別委員会

委員長／細谷恒夫 副委員長／新井豊 委員／佐藤憲璋、光益尚登、内藤英四郎、板垣久美子、加藤直人、鎌田正典、小林新、村井寿夫 技術顧問／真鍋章良、大村秀夫 事務局／狩谷達之

## ●CLAのオリンピックに向けたこれまでの取り組み

ランドスケープコンサルタンツ協会は、オリンピック招致委員会を組織し、2016年東京オリンピック招致活動から、景観・ランドスケープ計画の視点から提案を行うとともに様々なシンポジウムを開催し、招致活動を支援してきました。開催地決定後は、2020東京五輪特別委員会を組織し、引続き提案等を行うとともに、TOKYO GREEN2020推進会議に参画し、ランドスケープ業界全体と連携した活動を展開しています。

## ●明治神宮外苑の再生と新国立競技場整備計画に対する景観・ランドスケープの提案

### (1) 検討の前提として意識すべき神宮一帯の土地の特性・記憶

皇室ゆかりの施設や明治期からの歴史を伝える首都東京の歴史文化地区 明治神宮、東宮御所、旧宮家邸、聖徳記念絵画館、皇室の庭園として造られた新宿御苑、帝国陸軍施設跡、青山霊園、旧大名屋敷跡、大学、その他数多くの神社や墓地があります。国民スポーツの歴史を創ってきた施設が集積するスポーツ活動のメッカ 国立競技場、神宮球場、秩父宮ラグビー場、テニスコート等があります。

地形上の骨格に位置する首都東京の緑地・景観拠点 武蔵野台地の尾根部先端に位置し、皇居、神宮内苑・外苑・東宮



神宮外苑の大規模な緑の立地状況

御所・新宿御苑・代々木公園等の大規模緑地が集積しています。明治神宮一帯は、我が国初（大正15年）の風致地区に指定されています。

ランドスケープレガシーの集積地 人工的に造られた明治神宮の杜、国民公園である新宿御苑、景観軸のイチョウ並木、都会の森づくりの代々木公園があり、都心では皇居とならんで大規模公園緑地が集積する地区です。

### (2) 現在の問題点

現在の新国立競技場計画には、以下のような問題点があると考えます。

- ①神宮一帯の全体計画がない
- ②神宮一帯のもつ歴史的意味や緑地環境・景観の重要性への配慮のなさ
- ③外苑地区の総合的な土地利用計画の欠如、各種計画の連携のなさ
- ④アスリートや利用者の視点に立ったオリンピックレガシーづくりの欠如

### (3) 新国立競技場整備に向けた基本的考え方

神宮一帯の土地の特性・記憶を活かし、問題点を解決することを念頭に、次のような視点が必要と考えます。

- ①神宮一帯の水と緑のネットワークを意識した都会の杜を保全し創出する
- ②風致地区にふさわしい建築物と緑の杜の調和を図る
- ③オリンピックレガシーとなるフルスペックの施設整備と、公園の利用が楽しめるオープンスペースを確保する
- ④周辺部の公園緑地や鉄道駅と外苑地区施設を連絡する、歩いて楽しめるバリアフリー動線を整備する

### (4) 新国立競技場及び明治神宮外苑地区一体の整備に向けた提案

#### ①新国立競技場に求められる配慮—神宮の杜としての象徴性の維持・風致地区にふさわしい景観形成—

神宮の杜の特質を踏まえ、生態系の保全創出・水循環の回復、歴史文化的景観の保全など、多面的な視点から環境を尊重する東京の姿勢を世界に示すことを念頭に、スペース効率を追求しコンパクトな外形の中にゆとりと魅力に富んだ空間を創出する工夫が求められます。具体的には、新国立競技場の本体設計の前提として次のような配慮を行うことが望まれます。

建物高の抑制 トラック部分の計画高を谷筋の外苑西通りと同程度に抑えるなど、斜面地形に埋め込む形として、競技場の高さを周辺から概ね40m程度に抑えることが望まれます。

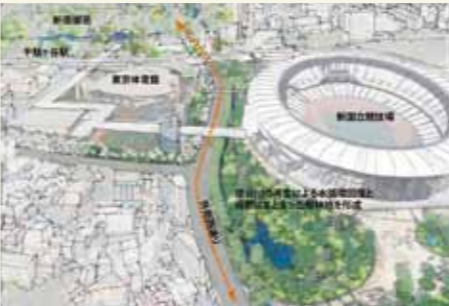
地上部の面積低減・既存樹の保全 現存する古木・大木を極力保全し、必要に応じて移植を行うなど、永続する神宮の杜の中に佇む建築物として周辺に調和した風致地区にふさわしい環境・景観を維持します。これは盛夏の『おもてなし』として涼を提供するためにも重要です。

こうした配慮により、提案1・2のような環境整備を一体的に進めることが可能となります。

#### 提案1 渋谷川の再生と谷筋の杜の形成

水と緑の回廊づくり かつて渋谷川が流れていた谷筋にあたる外苑西通り沿いに流路を再生し、潤いに満ちた憩いの場として整備します。神宮の杜の特性に即した生物多様性の維持向上に寄与する生態的回廊形成に加え、新宿御苑・神宮内苑など周辺の緑に連なるシンボルとなり、環境・利用の両面でのネットワーク強化が期待されます。

クールアイランドの形成 渋谷川再生による水循環回復と一体で谷筋にまとまった樹林地を形成することで、極めて過酷なものになると推定されるオリンピック



新宿御苑に連なる水と緑の連携イメージ

開催時の盛夏における熱環境改善への寄与が期待されます。

広域的な連携 渋谷駅周辺の再開発と一体で計画されている渋谷川再生とも呼応し、広域的な歩行ネットワークの魅力形成にも寄与します。

#### 提案2 多目的機能を備えたサブトラックを常設

常設サブトラックを確保 新国立競技場本体をコンパクト化（主に南北長を低減）できれば、南側に拡張予定の都立明治公園敷地に常設サブトラックの整備も可能となります。オリンピック後も国際競技大会に対応できるフルスペックの競技施設とすることができます。

多様な利用空間の形成 サブトラックは、平常時は一般市民も利用できる緑豊かな多目的スポーツ空間として活用するほか、災害時の避難場所・広域防災拠点としての機能も確保します。

立体公園として地下空間を活用 立体都市公園制度を適用し、地形特性（隣接する外苑西通りとの高低差約8m）を生かした地下空間の活用を検討します。収益を生む地下駐車場とするほか、災害に備えた備蓄庫や救援物資の荷捌きスペース等としての活用も想定されます。

#### ②周辺部への提案

外苑地区の総合的な土地利用検討と隣接部の再開発と連携した土地の有効活用

神宮外苑地区には、新国立競技場以外にも神宮球場・秩父宮ラグビー場・テニスコートなど種々のスポーツ施設が集積しており、それらと商業業務エリアを含めた再開発も検討されています。その際に、部分ごとに考えるのではなく、神宮一帯の歴史的空間的な特性を踏まえ、50年・100年先のあるべき全体像を見据えて総合的な土地利用計画を作成し、新国立競技場建設と連携した合理的・一体的な整備を行っていくことが望まれます。現状では、大規模な競技大会やイベント開催時に利用者が離合集散する場が極端に不足しています。また多様な施設を束ねる外苑地区全体としての利用拠点もあいまいであることから、新国立競技場整備と地区の再開発を契機に、地区中央部に核となる空間を確保することも望まれます。

施設群をコンパクトに集積 将来予定されている神宮球場と秩父宮ラグビー場の配置入れ替えを含む再開発にあたっては、相互連携を強化することで、機能と魅力を高めながら全体をコンパクト化して、土地の効率的な活用を図ることが望まれます。

開発と保全・区分と連携 土地利用を高度化し「にぎわい創出」を目指す青山通り沿いの南側ゾーンと、風致の維持を意識すべき北側ゾーンの間を区分する一定の緩衝帯を何らかの形で確保するとともに、一連の空間として南北を結びつけるストーリー設定と魅力づくりが求められます。

こうした配慮により、提案3・4のような環境整備を一体的に進めることが可能となります。

#### 提案3 中心拠点となるセンター地区（オリンピック広場）を整備

中心拠点の確保 再開発に合わせて、神宮外苑の



緑に囲まれたサブトラック（多目的スポーツ空間・防災拠点）のイメージ



サブトラックの地下を活用した駐車場のイメージ



外苑地区のゾーニングイメージ